

男女共同参画講演会

地域に元気を!

少子化時代の男女共同参画

2月9日、御前山市民センターにおいて、男女共同参画講演会が開催されました。
これは、市女性活動指導者連絡協議会と市の主催により毎年開催しているもので、今回は茨城大学人文学部教授の渋谷敦司先生を招いて、「地域に元気を!少子化時代の男女共同参画」というテーマで開催しました。



▲意識度チェックに答える会場の様子 (ステージ上は推進会議委員の皆さん)

あなたの意識度チェック!

今日は講演に先立ち、「あなたはどっち?」という男女共同参画意識度チェックが行われました。

これを進めたのは、市の男女共同参画計画の策定に携わり、日ごろから男女共同参画意識の向上と参画社会の形成をめざして調査・研究をし、男女共同参画計画の取り組みの推進と管理をしていただいている市男女共同参画推進会議委員の皆さんです。
委員さんが質問する内容に、会場の皆さんは日ごろの自分の生活を思い浮かべながら、YES・NOの用紙を高々と掲げて答えていました。
委員さんの予想よりも男女共同参画意識が浸透した答えもあったようですが、委員さんの楽しいコメントに会場は笑いに包まれ、和やかな雰囲気となりました。このチェック

は、男女共同参画に関する日本の現状がそのまま反映されたような回答ぶりで大変興味深いものでした。
さて、皆さんはどちらでしょう?

- **あなたはどっち? 問題と会場の反応**
- ① 男性が育児休暇を取る事には違和感がある → ややYESが多い
- ② 地域の会合で積極的に発言する女性には出しゃばりだと思ふ → ほとんどがNO
- ③ 子どもを叱る時に「男なんだから、女なんだから」と言ってしまう。 → ややYESが多い
- ④ 朝のゴミ出しや一人で買い物をしている男性を見ると情けないと思ふ → ほとんどがNO
- ⑤ デートの費用は男性が持つべき → YES・NOが半々

先生の子育て体験から...

先生ご自身は、1年間育児休暇を取得し育児に専念された経験をお持ちです。その体験から、育児の取得は良いことばかりではなく、それよりも、誰かが一人で子どもの面倒を見なければならぬ状況を変える必要がある。家族や地域の人に預けたり、地域の施設を利用するなど気軽にできる状況、社会全体で子育てをする環境をつくる必要がある。また、家庭生活はあまり理想を高く掲げず、夫婦や家族がお互いの合意の元で合理的に協力していく事が一番上手くいくのでは?とおっしゃっていました。

男女共同参画によるまちづくり



渋谷先生は、「男女共同参画はまちづくりである」という観点から、市の男女共同参画計画の基本理念「男女共同参画で一人一人の個性と能力がキラリと光るまちづくり」の考え方を基に、男女共同参画でまちづくりを進めるための手法などについてお話されました。

なぜ男女共同参画の推進なのか?

- 出発点としての課題
 - ← 社会のあらゆる分野に性差別や男女平等でない現実があるという認識
 - ← 1979年「女子差別撤廃条約」を日本が批准
 - ← 「男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」が作られる
 - ← 各都道府県や市町村で男女共同参画社会に向けて条例や計画が作られ、現在の取り組みに繋がる
- 出発点の課題に照らし現状はどうか
 - ← 課題に対応するには、今どのような分野にどのような差別が存在するのかを把握する事が重要ポイント
 - ← 様々な調査が必要(常陸大宮市でも、平成17年度に市民意識調査を実施)
 - ← 市民の皆さんの答えから、様々な問題や課題が見えてくる。

○どこから手をつけるのか？

限られた予算の中では、何について重点的に取り組むべきなのかを見極めることが重要であり、市の弱点を見つけ政策の優先順位をつける必要がある。

※日本の場合：リーダー層における女性の割合が国際的に見ても低い状況で、現在の国の重点項目となっている。これは、各市町村にも言えることである。

「男女共同参画はまちづくり」の意味
2005年12月、国の第2次男女共同参画計画が閣議決定。新たな取り組みを必要とする分野の一つとして、地域おこし・まちづくり（観光）が追加。

各地で取り組みが進められているが、ある特定分野での単なる人集めのイベントと誤解されている傾向にある。

◆まちづくりはすべての分野に関わる問題であり、今、あらゆる分野に男女共同参画の考え方が求められている

市民生活に関わる、あらゆる分野の問題をまちづくりと捉えた上で、市の弱点を探り課題を明らかにし男性も女性もまちづくりに参画していくことが、男女共同参画を通じたまちづくりの基本的な意味と言える。

⇔ 逆に、「女性らしさや、女性の得意分野を發揮したまちづくり」という考え方は、女性の能力や個性を發揮

できる分野を狭めて限定することになる。

新しい豊かさを求めて

活力のあるまちをつくるために「人口を増やす」や「就労の場を増やす」というのは一面的な問題に過ぎない。

そもそも、高度経済成長長期に使われた、「活力」という言葉は、時代にそぐわなくなっているのではないかな。新しい豊かさや、ゆとり、自然との調和などの成熟したイメージの言葉で地域の未来を考えていくべきであり、新しい豊かさを実現するようなまちづくりを目指して男女共同参画を推進していくことが求められている。

新しい豊かさの中で、現在、男女共同参画で最も注目されているのが「仕事と家庭の調和（ワーク・ライフ・バランス）」というもの。

仕事ばかりではなく、仕事の時間を減らしても暮らしをどう実現していくかが、日本の社会が直面している大きな課題の一つとしている。

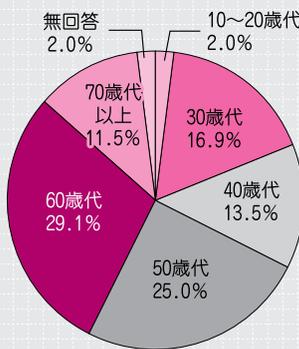
よって、様々な条件整備をしながら、仕事と家庭の両立を通じて新しい豊かさが実感でき、男女共同参画によって地域に新たな元気が生み出されるようなまちづくりが求められていると言えるだろう。

問い合わせ先
本庁企画課企画調整・男女共同グループ
52-1111 内線325

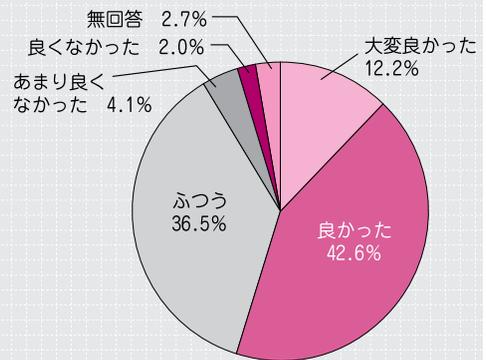
講演会アンケート結果

来場された方にアンケートを実施しました。結果は次のとおりです。
回答者数 148人
(男性59人・女性83人・無回答6人)

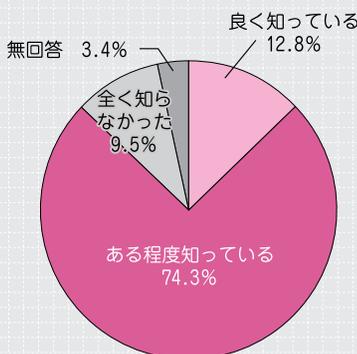
Q：あなたの年齢は？



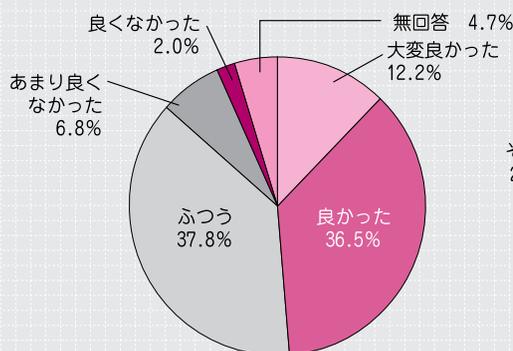
Q：意識度チェックはいかがでしたか？



Q：市では男女共同参画計画を策定し、取り組みを進めています。内容をご存知ですか。



Q：講演内容についていかがでしたか？



Q：現在の社会で、男女の地位が平等だと思える場はどこですか？

